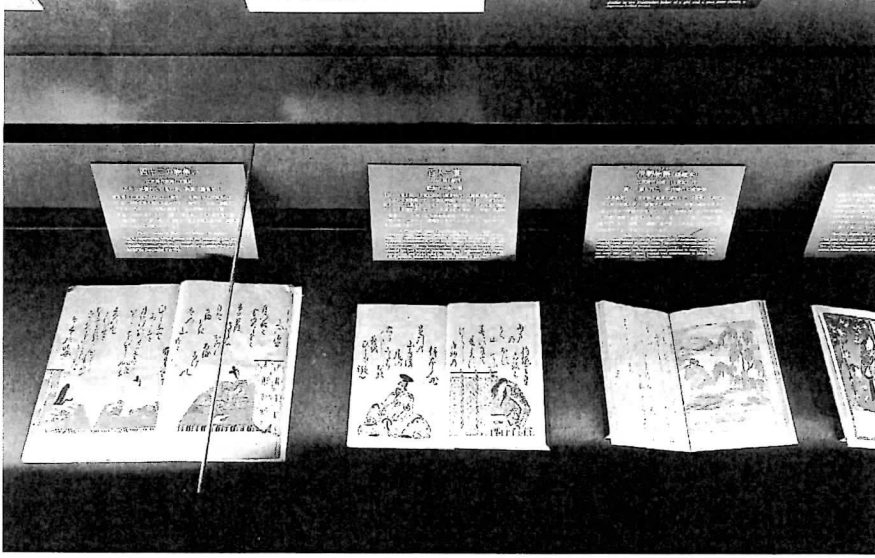


サンゲツ 映り込みを軽減 東洋文庫に低反射フィルム

サンゲツ(安田正介社長)はこのほど、同社が販売する低反射フィルム「ルクリア」が東京都文京区の公益財団法人東洋文庫に採用された。東洋文庫は三菱財閥第3代当主岩崎久彌氏が1924年に設立した東洋学の研究図書館。サンゲツと三菱商事(垣内威彦社長)が共同で都内に数カ所ある三菱財閥系の文化施設に「ルクリア」を提案。東洋文庫が第一弾として決まった。「ルクリア」はガラスの面に貼付することで自身の姿などの映り込みを軽減できる。屋外でも使用できるので路面店のショーウィンドーにも適する。同社の金子義明事業部長と池山洋二東洋文庫普及展示部運営課長に採用までの経緯を聞いた。



ていたと思われる展覧です。くまきりなめい くまきりなめい



下の施工前と比べて、上の施工後は映り込みが少なく、ガラス越しの展示物がよく見える



ループル美術館(フランス)、ボストン美術館(米国)など、海外の美術館や博物館では低反射ガラスが当たり前のように使われているが、日本ではあまり使われていない。理由を聞いてみると、予算の問題が大きいことが分かった。最近まで低反射ガラスは輸入に

頼っていて「非常に高い」というイメージがあり、予算のある国立の美術館や博物館でしか使われていなかった。

「ルクリア」はガラスの面に貼付することで映り込みを軽減できる低反射フィルム。一般的なフロートガラスは光がガラス表面に当たると映り込みが発生し、ガラス越しの展示物が見えにくくなる。フロートガラスの可視光線反射率は7〜8%なのに対して、「ルクリア」は業界でもトップレベルの1%未満(0.9%)に抑えることができる。

性能もさることながら、既存のガラスショーケースをそのまま活用できるという点が高く評価された。東洋文庫の展示物はほとんどが書籍類。展示物のものを鑑賞するという美術館的な要素より、パネルなどで説明を受けて見識を深めるといった博物館的な要素が強い。パネルの文字が映り込んでしまうと、展示物の文字と重なって見えづらくなる。その解決法の

一つとしてスポットライターの当て方を調整することもできるが、それにも限界があった。「ルクリア」を採用したことで「期待した効果が得られて満足している」(池山洋二東洋文庫普及展示部運営



金子義明氏(左)と池山洋二氏に話を聞いた

課長)「それで、予算と折り合いをつけながら、他のガラスショーケースへの展開も考えているという。」

金子事業部長は「内装の照明を手掛けているデザイナーはガラスへの映り込みは防げないという認識で諦めている人がほとんど。お客さんから指定された製品やロゴといった対象を目立たせるために、光源の角度を調整するのには大変苦慮しているという話をよく聞く。「ルクリア」を貼つてもらうことで、こうしたストレスから解放される」と強調する。

「ルクリア」は工事も短期間で済み、材工で考えた場合でもインシャルコストを抑えることができる。フィルム特有の飛散防止効果で、万が一ガラスが割れても飛散せず、紫外線を99%カットするので展示物の退色を防ぐ。屋外耐候性を持たせることで路面店のショーウィンドーにも提案が可能になり、あらゆるシーンで適用してもらえる製品となった。客から「このような場所でも使うことはできるのか」といった問い合わせもあり、用途の幅が広がっている。

してはその解決方法に選別が少なく、屋内に限っては照明の調節や展示ケースを特注で作るなどの方法が一般的に行われてきた。当たり前だと認識されている「ガラスへの映り込み」を軽減できるといふことをきちんと説明することで、潜在的なニーズを掘り起こしていく。「特に商業施設のショーウィンドーや自動車のショールームなどをターゲットとして考えている。背景が暗い(黒い)とガラスの映り込みが顕著に見える傾向にあるので、夜景がきれいなホテルなどにも期待している」(金子事業部